

令和 4 年度事業報告書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

（ 概況 ）	 P 1
--------	-----------

（ 事業報告 ）

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と
活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与する事業

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 （もったいない総研事業）	 P 2
--------------------------------------	-----------

2 産業人材を育成する事業 （北九州地域産業人材育成フォーラム事業） ※別紙 1 参照	 P 3
---	-----------

3 次世代を担う人材を育成する事業 （「北九州の企業人による小学校応援団」事業） ※別紙 2 参照	 P 3
---	-----------

4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 （「1000人の夢寄金」事業） ※別紙3参照	 P 3
--	-----------

5 まちづくり推進事業	 P 4
-------------	-----------

II 法人運営事業 P 5

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、
当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制
および財務基盤の強化を図る。

（ 概 況 ）

令和 4 年は、令和 3 年に続き新型コロナウイルス感染症の感染が収まらず、感染者の増減を繰り返し、国内外の社会経済に大きな影響を与えました。北九州市においても引き続き市民の生活、経済活動に大きな影響が出た 1 年となりました。

令和 5 年に入り、行動制限の緩和もあり、一定の制約はあったものの企業活動や学校が緩やかながら回復しました。

その様な中、KPEC の事業につきましても新型コロナウイルスの影響を受け、産業人材育成フォーラムにおけるインターンシップが中止や、小学校応援団の出前事業でも中止となった授業もありました。一方で IT を活用したリモートでの説明会、リモート出前授業などに代表されるリモート化が社会に浸透した年でもありました。

負の要因も多い環境ではありましたが、令和 4 年度の KPEC 事業は、これまでの主力事業である；

- ①もったいない総研事業
- ②北九州地域産業人材育成フォーラム事業
- ③北九州の企業人による小学校応援団事業
- ④1000 人の夢寄金事業

に加えて、新たに法人事業として「風力発電人材育成事業」に取り組みました。

また、最大の改題であった財務改善は新規に受託した法人事業、経費削減、資産運用などにより経常収支は大幅に進捗させることができました。

(事業報告)

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業)

“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライド（まちへの愛着・誇り）の醸成の企画・研究を行い、当協議会が提唱する“もったいない”の普及を図ることを目的とした事業。

1) 資源循環型社会づくり施策の一環とした商品の企画・開発・普及を推進

(1) 『北九州紙 えこっパー』の普及によるSDGsの推進

① 『北九州紙 えこっパー』の普及促進

牛乳パック・古紙を再利用したりサイクルトレットペーパー『北九州紙・えこっパー』を「北九州エコプレミアム選定商品（令和元年度に選定）」として効果的にPRするとともに、北九州市のホームページの暮らしの情報への掲載など、認知向上、普及拡大に取り組み、地域循環サイクルの実現を通じてSDGsを推進した。

<えこっパー販売数>（1パック6個入り）

前年比では大幅に回復。しかし、新型コロナ前には届かず。

◇令和4年度販売数：173,352 パック（前年比 23,528 パック増）

◇累計販売数（平成13年度～令和4年度）：3,946,344 パック

<『えこっパー』のホームページでのPR>

◇北九州エコプレミアムホームページ [選定検討会委員特別賞の紹介]

<https://www.kitaq-ecotown.com/ecopremium/special/entry/797.php>

◇北九州市ホームページ [暮らしの情報（源回収された古紙の行方）]

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyou/01100168.html>

② 『北九州紙・えこっパー』による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙・えこっパー』の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施した。

2) 市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産（仮称）」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、「もったいない総研事業」の企画、研究および普及を推進する。

(1) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発

① 『北九州市立旧百三十銀行ギャラリー』の指定管理事業の運営及び近現代建築物の保存・活用の研究の実施

「北九州市の文化財を守る会」と協働で旧百三銀行ギャラリー（北九州市指定有形文化財）の指定管理運営事業を円滑に実施するとともに、本事業を通じて、近現代建造物の保存・活用(ファシリティマネジメント)の研究と北九州地域の近現代建築物の紹介(パネル写真展・歴史講演会等を開催)および保存活動の推進を行った。

＜令和４年度の主催事業まとめ＞

稼働率が目標の40%を超え45%を達成。

閑散期、保守日を勘案すると45%は限界に近い。

項目	目標	結果	参考) 令和３年
利用件数	50 件	34 件	23 件
年間稼働率（日数）	40 %	45 %	32 %

(2) 自然環境保全ネットワークの会（通称：自然ネット）

北九州市環境局自然共生係が事務局となり北九州市の自然環境保全、動植物の調査など、北九州市のCOP15への取り組みを進めている任意団体に参画し、KPECの視点で提言を行った。

R４年度の総会では北九州市の各部局で進められている施作との連動を提言した。具体的には豊かな自然は都市の魅力であり、移住促進、企業誘致でもプラス材料であり、他にも様々な相乗効果を模索して欲しいと要望した。

2. 産業人材を育成する事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

※事業報告の具体的内容は、

「2022年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業報告書」（別紙１）の通り

3. 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校１２９校を対象に、出前授業、教員研修及びP T A活動促進支援事業を実施した。

※事業報告の具体的内容は、

「2022年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙２）の通り

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・団体に対して活動費用を助成し、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化を共に育み、真に魅力ある まちづくりを進めて行くことを目的とした「1000人の夢寄金」事業

※事業報告の具体的内容は、

「2022年度1000人の夢寄金事業報告」（別紙3）の通り

5. まちづくり推進事業

北九州市域の新しい課題、ニーズを適正に把握することにより、産・学・官・民の連携軸として

北九州市域の活性化と持続的発展を図る事を目的とした事業。

1) 産学官民連携による地域活性化事業の推進

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施（新規）

北九州市の様々な課題、優位性などを調査し、令和4年度は「北九州市グリーン成長戦略（エネルギー戦略）」に関する情報集等を実施した。

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

i) 共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う計画、実施した。但し、新型コロナウイルスの影響により、一部の活動を中止した。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行った。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行った。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進した。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行した。

<KPECニュースの発行>

◇ KPECニュース Vol67 令和4年7月1日発行（発行部数1000部）

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、K P E C 事業活動情報をタイムリーに発信した。

II 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図った。

1. 事業運営体制の検討

1) K P E C の事業運営・管理体制の強化

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓 (新規)

北九州市より風力発電人材育成事業に関する補助業務を受託。

北九州市グリーン戦略を側面から支援し、且つ、市内の工業高校、大学校と企業の連携を推進できた。同時に財政面の改善を図る事ができた。

(2) 寄付金事業の事業化

期初から年末までの9か月間は新型コロナ禍の影響もあり、特定の寄付事業を確立する情勢に至らず、具体化できなかった。

2) 事業運営体制の整備促進

事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業（北九州地域産業人材育成フォーラム事業、北九州の企業人による小学校応援団事業等）について、KPEC の役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化を含めた検討を行った。

3) 会員募集と会員サービスの向上

(1) 会員募集の強化

新規会員募集の推進については、新型コロナウイルスの感染者が増減を繰り返す中、積極的な募集活動を行う事を控えた。

◇令和4年度賛助会員数：85名（対前年：6名増）

◇令和4年度賛助会費額：2240千円 （対前年 320千円増）

(2) 会員サービスの向上

賛助会員に対して、K P E C が実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

2. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 理事会の開催

① 定時理事会

第1回：令和4年5月25日

第2回：令和5年2月14日

2) 評議員会の開催

① 定時評議員会

第1回：令和4年6月16日

第2回：令和5年2月24日

3) 執行役員会議の開催（月1回）

別紙4 参照

別紙 1

北九州地域産業人材育成フォーラム
令和4年（2022）度 事業報告書

I 概 況

令和4年度の産業人材育成フォーラム事業は、コロナ禍の経験も経た中で、感染防止対策を行いながら①高度人材育成を目的とした、各種インターンシップの実施 ②中堅・中小企業の中核技術者、経営人材の育成を目的とした、地域大学の大学院を活用した各種プログラムの実施 ③産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的とした、ものづくりに関する教育機会づくりや早期工業教育の開発・実施と、国や北九州市が推進するインターンシップ、リカレント教育、まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生インターンシップの推進等と連動した各種事業を推進した。

しかしながら、新型コロナの影響で一部インターンシップの中止、変更や社会人プログラムの準備停滞が生じ、皆様の期待に部分的に沿えることができなかった。

また、青少年育成につなげている“かがたま”の運営について、KIGS 事業の反映ができなくなった管理上の問題に加え、情報の DX 化が進むことでポータル役割を終えたと判断し、令和4年度をもって終了することとなった。

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ事業」は「研修型(短期)インターンシップ」、「実践型(長期)インターンシップ」の推進に加え、課題解決をテーマにした北九州市立大学（以下北九大）の1年生インターンシップ、労働安全衛生を切り口にした産医大2年生のインターンシップなど、低学年のインターンシップについても引き続き強化・実施に取り組んだ。

学生の成長につながる企業からの課題提示や、将来の中核人材を担う視点を醸成する新たな事業創造を体験するインターンシップなどを提供する企業が出てきており、北九州地域での人材育成に対する新たな風が起きつつあると感じる。

2. 社会人育成プログラム事業の支援

中堅・中小企業の経営・管理者育成を目的として、北九大大学院マネジメント研究科（K2BS）と連携して「採用力強化セミナー」「実践経営車座講座」を実施する予定であったが、3年続けてのコロナ禍で、予定プログラムすべて見送りとなった。

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称: かがたま)」の運用を継続し、理工系イベントの紹介を実施した。なお、北九州イノベーションギャラリーの指定管理終了に伴う紹介コンテンツの減少に加え、情報の DX 化で類似のサイトが増え利用率の大幅な低下も見られていたことを受け、ポータル役割を終えたと判断し、令和4年度をもって終了することとなった。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

コロナ禍の中で、ホームページの活用を中心に、フォーラム事業の情報を、手軽に入手できるように、提供方法、内容等改革を進めた。

令和4年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの活動結果は、次のとおりである。

II. 事業計画の内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である研修型(短期)インターンシップの拡充を図るとともに、実践型(長期)インターンシップの事業化のための環境づくりを推進した。

1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 (継)

大学から職場・社会への円滑な移行の確保のための社会人基礎力の修得と地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施した。

《研修型(短期)インターンシップの実績推移》

	H29 年度		H30 年度		R 元年度		R 2 年度		R 3 年度		R 4 年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	登録	実施	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	5	5	5	5	6	5	5	4	5	4	5	4
企業(社)	88	39	83	32	86	39	62	21	59	34	63	29
学生(人)	74	65	74	65	85	76	41	36	55	49	47	47

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 (継)

域外工学系大学（福岡工業大学）へ北九州産業人材育成フォーラムの取組を説明、フォーラム参加の可能性を探るなど更なるインターンシップの拡大に努めた。
また、学生がインターンシップを利用しやすい環境を創るため、インターンシップ受入時期や期間等の柔軟な対応に努めた。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 (継)

『キャリアアップ型インターンシッププログラム』に関しては、関連する取り組みとして、北九大より「未来地域産業インターンシップ」として、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む大学1年生を対象にした課題解決型インターンシップの受入企業拡充支援を行い、企業への学生の橋渡し、報告会への参加等を実施し、以下の効果が期待できた。

- ・学生の自己の実力把握と学習目的醸成。
- ・企業への人材育成に対する認知向上。
- ・実践型（長期）インターンシップにつながる基礎部分の補強。
- ・キャリアアップ型の経験による、学生の自己成長の把握。

＜北九大1年生インターンシップ実施実績＞ ※フォーラム協働企業への参加者のみ

	令和4年度
受入企業	7社
参加学生	13名

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の環境整備と拡充 (継)

九州工業大学(以下九工大)を中心に「実践型(長期)インターンシップ」の実施環境づくりを行い、「課題解決型」の実践型(長期)インターンシップを実施した。

特に実機稼働プログラム構築に取り組んだ学生に関しては、製作知識がない状態でのスタートであったが、プログラム実践や調査により課題を解決しプログラムを構築。最終的にラインへの設置となるなど、学生自身も成長実感を強く感じられる結果となった。

《実践型(長期)インターンシップ実績推移》

年度	R2年度	R3年度	R4年度
学校(校)	2	1	1
企業(社)	4	4	5
学生(人)	6	7	5

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施 (継)

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声をホームページに掲載し、説明会などで紹介した。

また、企業、大学関係者との意見交換により、実践型(長期)インターンシップの更なる理解促進に努めた。

② 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援 (継)

北九州高専の長期インターンシップ(本科、専攻科)の参加企業拡充に向けての支援を実施した。

《北九州高専長期インターンシップ実績推移》 ※フォーラム協働企業のみ

	R2年度		R3年度		R4年度	
	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科
企業(社)	3	12	3	1	6	0
学生(人)	4	18	5	1	6	0

(3) 低学年に対応したインターンシップの支援 (継)

北九州市が力を入れているSDG'Sや再生可能エネルギーにつながる産業人財育成に向けて、北九州市立大学の「未来地域産業インターンシップ」など、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む1、2年生を対象にしたインターンシップの受入企業拡充支援を実施した。

《北九大1年インターンシップ実績推移》

年度	R2年度	R3年度	R4年度
企業(社)	7	9	7
学生(人)	22	12	13

注) R4年度特記: 新型コロナウイルス感染者確認により、1社(2名)途中中止

(4) 北九州市立大学大学院次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援（新）

文科省が進めている博士課程支援策に基づく、北九州市立大学の「地域で育て地域を興す博士後期プログラム」の、北九州地域博士活用委員会への参画及び博士後期のインターンシップに関する受入支援を実施した。

2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、インターンシップ参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行った。

(1) 北九州地域企業研究・交流会の企画、開催（継）

北九州地域企業の企業研究・産学交流会の開催については、今年度もコロナ禍の中で中止とした。

企業を知ってもらう機会を補完するため、学生の地元企業への興味を引くようホームページへの北九州の中小企業紹介のリンクを拡充した。また、大学・企業関係者からの要望もあり、企業見学会を試行的に実施した。

(2) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充（継）

インターンシップの参加者拡大を狙い、先輩や企業の声を直接伝える動画配信や、登録企業の協力を得てインターンシップ実施有無など学生への早期情報発信に努めた。

- ・インターンシップ参加企業による、勧誘動画の協力
- ・企業紹介動画のリンクページの拡充
- ・インターンシップ対象企業 MAP（Google マイマップを利用）継続

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備（継）

例年各学校で実施されている「インターンシップガイダンス」は、本年度もコロナ禍の影響を受け、対面とオンライン併用の実施となったが、事務局が直接参加しプロモーションを実施した。また、広報チラシなども電子データで、各学校より学生へメール配信いただくなど、各学校の実情に合わせたプロモーションも実施した。

3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

(1) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化（継）

コロナ禍で、対面活動の制限により、新規開拓そのものが難しい中、コーディネーターも対面から電話、メールなどのオンラインに切り替え活動強化した。

(2) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケート・調査の実施（継）

インターンシップの円滑な運営のために必要な各種アンケート・調査を実施した。調査結果については今後のインターンシップ事業運営に活用する。

《インターンシップ関係調査》

- ・地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学: I S 実施学生)
- ・地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(I S 実施全企業)
- ・連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

《就職状況関係調査》

- ・ 連携大学・高専における地元就職状況調査（全大学・全学部全学科別）
- ・ 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査（全大学・全学部）

＜アンケート結果概要（前年度との比較）＞

- ・ 働くことを体験したいと思う学生が減少し、学生が学んできたことが現場でどのように生かされるか、また、就職活動に役立つと思うといった社会への進出を想定した場合を想定した学生が増加。
- ・ 実習先の実習内容に興味を持つ学生が多く、実習内容の情報提供が重要。
- ・ 参加学生は、実習意欲、目的意識が高いとの評価。
- ・ 企業の社会貢献、知名度向上に活用したいと考える企業が増加。人材確保につなげる取組にしたいと推測。

2. 社会人育成プログラム事業の支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九大大学院マネジメント研究科（以下「K2BS」）と連携した、経営者・管理者育成のための事業の支援については、3年連続、コロナ禍の影響を受けることとなった。

1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたMBA活用プログラムの支援

K2BSと連携して、K2BSの環境を活用した地域企業の経営者・管理者育成のためのプログラムの支援を行う予定であったが、中止となった。

(1) 中堅・中小企業向け「MBAサテライトフォーラム」の開催・支援(継)

K2BSによる公開経営研究講座の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の経営者・経営管理人材の育成支援（リカレント教育・実践的マネジメントスキルの向上）とK2BSの地域プロモーションの促進を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援（継）

ケースメソッドによる実践的経営学講座(車座塾)の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の課題解決・経営革新および若手経営者（リーダー）育成の支援を計画したが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施した。

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進（継）

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進（継）

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進を進めるため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

(3)「産学連携デジタルものづくり中核人材育成事業」プログラムの支援

地域での中堅・中小企業に対する教育支援に関し、経済産業省「産学連携デジタルものづくり中核人材育成事業」で開発したカリキュラムに基づくスクールである、北九州工業高等専門学校主催の「第4次産業革命エグゼクティブビジネススクール」受講者に対する受講料補助を実施した。

北九州市ロボットテクノロジーを活用した地方大学・地域産業創生事業
「第4次産業革命エグゼクティブビジネススクール」概要

【主催】北九州工業高等専門学校

【共催】早稲田大学大学院情報生産システム研究科，北九州市、
(公財)北九州産業学術推進機構

【後援】九州経済産業局，(一財)九州オープンイノベーションセンター，
北九州地域産業人材育成フォーラム、北九州商工会議所，
(株)野村総合研究所、大分高専，熊本高専，佐世保高専，鹿児島高専

【協力】アラスジャパン合同会社，(株)ウェブアイ，ダッソー・システムズ(株)，ビジネスエンジニアリング(株)，P T C ジャパン(株)，(株)スタディスト，ミシマ・オーエー・システム(株)

<令和4年度フォーラムからの補助結果>

本講座（6講座）受講率80%以上を達成された参加者に対して、23,000円／人を受講料補助として支援するもの。

- ・参加企業14社：受講申し込み8名
- ・受講率80%以上参加者：6名
- ・助成金 計：13.8万円

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行った。

1) 北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”の運営・管理（継）

平成30年度に開設した理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱（愛称:かがたま）」は、北九州イノベーションギャラリーの指定管理終了に伴い、紹介コンテンツの減少に加え、情報のDX化が進み年々利用率の低下が見られていたため、ポータル役を終えたと判断し、令和4年度をもって終了することになった。

2) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり（継）

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進した。

1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進（継）

フォーラム協働企業(事業実施企業 194 社)をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集、登録を促進したが、コロナ禍が継続していることもあり積極的な企業がなかった。

◇令和4年度フォーラム有志会員企業数：39社

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施（継）

フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」（産学交流会等）の開催を検討したが、今年度もコロナ禍で実地できなかった。その補完も含めて、連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、動画を活用した産業別インターンシップ PR など、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行った。

令和４年（2022）度 産業人材育成フォーラム 決算

（単位：円）

	項 目	令和4年度予算額	令和4年度決算額	決算の増減	内 訳
収 入	1)負担金	8,000,000	8,000,000	0	
	①北九州市	7,000,000	7,000,000	0	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	2)会費	2,320,000	2,170,000	▲ 150,000	
	①企業会員	1,320,000	1,170,000	▲ 150,000	企業負担金 30,000×39社
	②大学・高専	1,000,000	1,000,000	0	大学等会費 300,000×3校 100,000×1校
	③交流会	0	0	0	
	3)雑収入	1,050,000	50	▲ 1,049,950	
	①出展料等	1,050,000	0	▲ 1,050,000	
	②企業見学バスツアー補助	0	0	0	
	③預金利息	0	50	50	
	4)前年度繰越金	500,000	599,924	99,924	
	【収入合計】	11,870,000	10,769,974	▲ 1,100,026	

	項 目	令和4年度予算額	令和4年度決算額	決算の増減	内 訳
支 出	1)人件費	0	0	0	
	①事業担当人件費	0	0	0	
	②臨時的雇用人件費	0	0	0	
	2)謝金	0	216,640	216,640	
	①専門家謝金	0	216,640	216,640	
	3)旅費	150,000	99,147	▲ 50,853	
	①旅費等	150,000	43,307	▲ 106,693	近距離旅費 等
	②専門家招聘旅費	0	55,840	55,840	
	4)委託料	10,270,000	7,886,920	▲ 2,383,080	
	①KTS業務委託	3,000,000	3,000,000	0	KTS 業務委託料一式
	②KPEC業務委託	4,670,000	4,670,000	0	KPEC 管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	2,600,000	216,920	▲ 2,383,080	H P改修・クラウド料 等
	5)その他経費	1,450,000	1,689,662	239,662	
	①会場借上げ料	55,000	39,600	▲ 15,400	会議等
	②印刷費	250,000	249,535	▲ 465	インターンシップ°ハ°ンフレット 等
	③通信運搬費	35,000	123,073	88,073	電話料・サーバー利用料、各種調査票、リーフレット郵送料
	④事務消耗品費	50,000	491,332	441,332	事務用消耗品費、DX対応品費 等
	⑤会議費	25,000	78,712	53,712	会議時飲み物代 等
	⑥交流会費	25,000	0	▲ 25,000	事業関係交流会経費
	⑦使用料及び賃借料	550,000	524,680	▲ 25,320	各種機器使用料、事務局関係諸費他
	⑧参加補助費	410,000	138,000	▲ 272,000	エグゼクティブセミナー助成
	⑨雑費	50,000	44,730	▲ 5,270	振込手数料 等
	【支出合計】	11,870,000	9,892,369	▲ 1,977,631	
	次年度繰越金	0	877,605	877,605	※80万円はR5年度実施事業用持ち越しで了承済

別紙 2

北九州の企業人による小学校応援団

令和4年度 事業報告書

I 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施する。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プロジェクトを実施した。

支援対象は市内の全市立小学校128校で、出前授業の利用は申し込みが56校、実施回数は248回であった（R3年度は37校、198回）。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大による影響が続く中、小学校応援団が令和2年度から導入を進めているリモート授業の拡大や、講師が三密回避のためクラスごとに授業を実施するなど柔軟に対応した結果、出前授業の実施件数はコロナ前の令和元年度と同程度に回復した。

1. 親学推進プロジェクト

PTAへの父親参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続を検討した。

1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

校長会・PTA協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の案内を配布するなどして、参加促進を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、今年度も配布を自粛した。

2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）を環境の変化について意見交換を行った。

2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行った。

1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で出前授業の講師派遣が難しい中、ヤフー(株)、シャボン玉石けん(株)、TOTO(株)に加え、今年度から九州電力(株)北九州支店他7企業がリモート授業に対応することとなり、合わせて13件19回のリモート授業が実施された。さらにオリジナルオーダーの「職業ミーティング」においても、中井小学校、若園小学校で一部講師のリモート授業が実施され、八幡図書館やヤフー(株)がリモート参加した。両校の職業ミーティングでは、自宅学習中の児童もオンラインで授業に参加した他、職業ミーティングの開催が、不登校児の登校のきっかけになったとの報告もあった。

2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

(1) 利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、利用校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に利用校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底した。

(2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行った。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込んだ。

さらに、小学校からニーズの高いSDGsテーマやリモート授業について、現場の先生にわかりやすく周知した。

3) 学校現場のニーズに対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図った。毎年春に実施している小学校へのアンケート調査をもとに、小学校からのニーズの高い新規テーマの開拓を検討した。また調査では、リモートや動画配布といった実施方法の要望についてもヒアリングを行った。

(1) 小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

2018年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図った。

(2) 新学習指導要領へ対応したテーマ設定

2020年度から新学習指導要領がスタートしたことで、小学校のニーズがより多様化している。小学校に対しニーズ調査を行い、調査結果をもとにニーズの多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努めた。

3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行った。

4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図った。

1) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要であることから、小学校校長との意見交換会を開催する予定であったが、新型コロナ

ウィルス感染症の影響を考慮し、今年度の開催を見合わせた。

5. 参加企業の拡大と活性化

小学校応援団に参加する約468の企業団体の活性化につながる事業を検討する。具体的には参加企業が地元への社会貢献をPRできるようSNS等を活用した広報体制の充実を図るとともに、企業側の人材育成、出前授業を通じたOJTのメリットなどを周知していく。また参加企業のさらなる拡大についても検討を行った。

- ・参加企業にヒアリングを行った。
- ・企画委員会において、参加企業拡大と活性化に向けた実施プロジェクトの検討を行った。

6. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施した。

1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

4月にコーディネーターが小学校を訪問し、教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を図った。

2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図った。

SNS等を活用して、参加企業の社会貢献を広く周知していく準備を行った。

3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図る。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供した。

Ⅲ 支援体制の充実

1. コーディネーターの組織体制の強化

対象校の拡大に伴い、平成26年度に事務局と学校を繋ぐ役割としてコーディネーターを設置した。多様化する学校のニーズに対応していくために、引き続きコーディネーターの設置と人材育成の強化を図り、各学校の状況、要望に沿った周知、支援を行った。

2. 参加協力企業等の拡大

全校（129校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行った。

Ⅳ 三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成２５年４月１日締結）に基づき、当
応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を昨年度に
引き続き開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を
行う等、事業の円滑な推進を図った。

北九州の企業人による小学校応援団 令和4年度決算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入

単位：円

項目	予算額	実績額	参考（令和3年度予算額）
負担金	7,500,000	7,500,000	<負担金拠出額> 北九州市 5,500,000 北九州活性化協議会 2,000,000
利息		27	
計	7,500,000	7,500,027	7,500,000

支出

単位：円

項目	予算額	実績額	説明
支援事業費	810,000	877,278	講師謝金、出前授業ガイドブック
コーディネーター業務費	700,000	638,500	費用弁償等
広報・プロモーション推進費	580,000	733,715	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの運用、充実等
人件費	4,440,000	4,431,000	事務局人件費
事務局経費	970,000	819,534	会議費、交通費、消耗品費、通信運搬費、事務室等使用経費等
計	7,500,000	7,500,027	

2022年度(令和4年度) 1000人の夢寄金 事業報告

ANNUAL REPORT 2022 2013/4~2023/3

Contents (2023年5月発行)

- P1 「1000人の夢寄金」について
- P2-3 令和4年度「1000人の夢寄金」寄付金募集の状況
- P4-5 令和4年度「1000人の夢寄金」助成事業の状況
- P6-7 第1回~第10回「1000人の夢寄金」助成状況一覧

KPEC 公益財団法人 北九州活性化協議会

〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町 1-35
北九州市立商工貿易会館 6 F
TEL : 093-541-3122
FAX : 093-541-0636
E-Mail : yume@kpec.or.jp

詳細はホームページ、Facebook でもご覧いただけます。

(ホームページ)
<http://www.kpec.or.jp/yume/>

1000人の夢寄金

検索

(Facebook)

 kpecyume



1000人の夢資金について ～ 市民による市民のための資金 ～

「1000人の夢資金」は
(公財)北九州活性化協議会(KPEC)が平成24年10月に設立した
“市民による市民のため”の民間資金です。
北九州市の都市格(教育力・文化力)を高めることを目的に、
市民のみなさまからご寄付を賜り
ジャンルを問わず市民の教育・文化活動への支援を行っています。

この事業は令和4年度で11年目を迎えました。
平成24年の事業開始から令和4年度までの11年間で
累計6,012万3千円の寄付をいただき
74団体へ1,772万3千円の助成を行っています。

寄付金を募集しています！！

「このまちのために何かしたい」

「誰かと夢を共有したい」

「世の中の役に立てていることを実感したい」

そんな思いを集める地域貢献の新しいカタチ。
ぜひ、お知り合いの方にご案内ください。

《ご寄付の種類》

- ① 基本ご寄付(1年に一度)
個人・団体：1口 3,000円 法人：1口 10,000円
- ② ご遺贈などのご寄付
「遺贈」「香典返しに代えて」など、故人のご意思やご家族の思いを
ご寄付として承ります

《ご寄付の方法》

専用の「払込取扱票」による銀行振込

※毎年継続的なご寄付にご協力いただける方は、預金口座引落も可能です。

《お問い合わせ先》

公益財団法人 北九州活性化協議会

TEL:093-541-3122 FAX:093-541-0636 E-Mail: ume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます <https://www.kpec.or.jp/yume>

1000人の夢資金

検索



1000人の夢寄金 令和4年度事業報告

1 寄付金募集事業

令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大変厳しい経済環境の中にもかかわらず、多数の皆様から温かいご寄付をいただきました。
ご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和4年度 寄付金合計：133万2千円 [(A) + (B) + (C)]

(寄付募集期間：令和4年4月～令和5年3月)

寄付金募集事業の内訳はつぎのとおりです。

基本寄付

個人・団体一口3,000円、法人一口10,000円を基本として寄付の募集を行いました。
「寄付のお願い」文書を発送するとともに、寄付者の振込手続き効率化と継続的な寄付を目的とした口座引落しによる寄付者の登録を推進しました。
また、ホームページからご寄付の申込ができるようにしました。
この結果、121の個人・団体・法人の皆様からご寄付をいただきました。

(A) 基本寄付金合計：92万3千円 (121件)

プロジェクト寄付

プロジェクト寄付事業としてボランティアグループ“シマウマ組”が主催するチャリティーバザー「クラフト・チクチク de マルシェとワークショップ」は、2年ぶりの開催となり、盛況を博しました。
また、“シマウマ組”が製作する、小倉織のぬいぐるみが引き続き人気を博しており、“シマウマ組”のみなさまから、以下のとおり、ぬいぐるみ(シマウマ・カバ)販売によるご寄付をいただきました。
一方、「チャリティー・ゴルフコンペ」は新型コロナウイルスの影響により開催中止となりました。

(B) プロジェクト寄付金合計：20万9千円

「しましま縞縞のシマウマ」「ときどき時々ヨコシマなカバ」の販売

「しましま縞縞のシマウマ」「ときどき時々ヨコシマなカバ」は、ボランティアグループ“シマウマ組”のみなさんが、小倉織の端切れを使用して、手作りで製作しています。ぬいぐるみの購入代金が寄付になる仕組みで、平成29年4月から本格販売を開始しています。
このぬいぐるみは、“小倉縞縞 本店”様で販売しています。
また、平成30年から、“北九州市のふるさと納税返礼品”に選定されています。



特定寄付(使途指定の寄付)

(C) 特定寄付金合計：20万円

※大分製紙(株)様からの寄付金

大分製紙株式会社からのご寄付

写真変更



令和5年2月9日(木)「北九州紙・エコッパ」を製造・販売している大分製紙株式会社様より、「北九州紙・エコッパ」の売上の一部のご寄付をいただきました。ご寄付いただいた寄付金は、市民の皆様の教育・文化活動への助成として活用させていただきます。

大分製紙株式会社様からは平成28年度から継続してご寄付をいただいております。これまでに総額140万円の寄付をいただいております。

※「北九州紙・エコッパ」は1パックにつき1円が寄付金となります。

寄付金の推移

(単位：千円)

H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	累計
1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041	2,272	1,973	42,678	1,369	1,332	60,123

2 助成事業

令和4年度の助成事業は、7月に一般公募を行い、「1000人の夢寄金」審査委員会による審査を経て、第11回助成事業先6団体を決定しました。

なお、例年は募集期間を7月31日までとしていますが、令和3年度に続き、令和4年度も新型コロナウイルスの影響を踏まえ、8月31日まで延長して募集しました。

- ◇助成事業の募集：令和4年7月1日～8月31日
- ◇助成事業の審査：令和4年9月20日(審査委員会)
- ◇募集の結果：助成件数 **6件** (応募件数 **12件**) 助成金額合計 **211万7800円**
- ◇助成対象期間：令和4年10月1日～令和5年9月30日

第 11 回助成先

◆ 事業名：あおぞらクラブ（公園遊び） ◆

（ONE キッズ、代表：國武 啓助）

外遊びや体を動かすことの大切さを届け、笑顔を生み出す

人との繋がりや公園での遊びが制限され、子どもも保護者も疲れきっている状況を危惧したスポーツトレーナーのみなさんが、「子どもを笑顔にしたい！」との思いで、体を動かしながら思いっきり遊び、楽しむ「あおぞらクラブ」を企画、実施しました。令和 5 年 1 月 29 日(日)に小倉北区の山田緑地で、年少～小学 6 年生親子を対象に行い、400 名が参加。親子で力を合わせる遊びや子ども対親のゲームなどを行い、「公園で遊ぶのって楽しい」「子どもの成長を感じた」など、喜びの声が届きました。主催者は「さらに多くの子どもたちを笑顔にできるよう活動を続けていきたい」と思いを強くしています。



◆ 事業名：地域が支える多様な活動プログラム!!「高見ドリームキッズ」事業 ◆

（高見まちづくり協議会、会長：伊藤 一義）

これからの時代の「地域部活動」を持続可能な事業へと育てる

運動神経やリズム感醸成、コミュニケーション能力向上が期待されるダンス。児童有志が学校で一生懸命取り組んできましたが、学校での活動継続が難しくなったことから、子どもたちや支えてきた人たちの思いを受けとめ、まちづくり協議会が主体となり新生「高見ドリームキッズ」として活動を開始。中学校部活動の地域移行が始まっているなか、今回の助成により、ダンス専門家を招聘した指導や地域で成果を発表する機会づくり、地域活動を幅広く知っていただき都市格を向上させる一環としての活動動画の制作と配信を行い、地域主体の部活動である「高見ドリームキッズ」を持続可能な事業へと育てます。

写真未原稿 暫定↓ <https://www.kita9.ed.jp/takami-e/syudaikenkyu/taiiku8.htm> より抜粋



◆ 事業名：北九州ドリームサミット 2022 ◆

(一般社団法人 Kitakyushu Dream Summit、理事長：曾我部 駿介)

子どもたちの目線で SDG's をテーマにまちづくりを提案

子どもたちが北九州の未来を見据えて議論し、行動を起こして検証、提案・発信していく「北九州ドリームサミット(KDS)2022」。市内の中学 2 年生が「SDG's」目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と目標 16「平和と公平をすべての人に」をテーマに、北九州市のために何ができるのか等の議論を重ね、中学生 52 名が出席して北九州市市議会棟にて「KDS2022 本会議」を開催。市長・議長・教育委員長へ提言と質問を行いました。施設見学等での調査や祭に参加して SDGs や KDS の PR を行うなど、KDS は机上の議論に留まらない全国的にも類を見ない先進的な取り組みです。



◆ 事業名：関門海峡 ―北九州新人戦 / 九州卒業設計展― ◆

(北九州建築デザインコミュニティ tonica、代表：富山 佳紀)

学生自らが企画、運営して開催した独自の建築設計展

全国各地で開催されているものの、九州にはなかった独自の卒業設計展。「北九州に建築議論の場を」をスローガンに、2023 年 2 月 20 日(月)から 22 日(水)まで、北九州市立美術館アネックス市民ギャラリーにて建築設計展及び審査会を開催しました。北九州市立大学、九州工業大学、西日本工業大学の 3 年生以下の学生 14 名と、九州で建築を学ぶ 4 年生以上の学生 20 名、計 34 名が出展。建築家との対話や模型の作り方など、大学の中だけでは得られない学びがあった他、学生同士や学生と社会人とがつながる場としても機能。建築を通して北九州を盛り上げる輪の形成につながった展覧会でした。



◆ 事業名：若松海岸通りの景観を継承するために ◆

(NPO 法人北九州建物遺産トラスト、理事長：畑野 清史)

若松海岸通りの素晴らしい景観を残していくために

石炭産業隆盛期に建設された近代建築が残る若松海岸通り。さまざまな世代の人が訪れ、その景観に癒されています。一方で近代建築の数は減り、失われた建物や景観は二度と戻りません。景観は大切な社会資源であることを多くの人に理解していただき、若松海岸通りが持つ潜在力を考え、市民と一体となって景観を未来につなぐ足掛かりとするため、令和5年3月19日から21日、若松南海岸にある近代建築・上野ビル、旧古河鋳業ビルでトークイベントやパネル展を開催。若松海岸通りの景観の魅力を具体的に提示しました。19日には洞海湾の周航も実施。参加者からは次回の開催などの要望の声が届きました。



◆ 事業名：北九州発！大切な児童を守る新たな学び！盗撮疑似体験型ブースを活用し全国に先駆けた盗撮被害対策を全国に広げよう！◆

(盗撮防犯ボランティア Wc、代表：山内 千春)

身近に潜む危険に気づく自衛のための全国初の取り組み

女性や児童を狙った卑劣な性犯罪であり「見えない性暴力」である盗撮。その被害は年々深刻化し、近年では児童を狙った盗撮によるビジネスが横行しています。盗撮に関するあらゆる問題を可視化し、注意喚起を促す啓発活動を行っている盗撮防犯ボランティア Wc では、子どもたちが自身を守る自衛の大切さを学び、教育者には児童を守るために改めて必要な知識を学びながら体験して欲しいと願い、盗撮被害疑似体験ブースを作成。このブースを用いた啓発活動や児童館や教育機関での講演活動を行います。全国初のこの取り組みを北九州から発信し、全国、世界で盗撮防止対策を進めたいと願い取り組んでいます。



助成実績の推移

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	合計
	(H25)	(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(R01)	(R02)	(R03)	(R04)	
助成対象期間	H25.4 ～ H26.3	H25.10 ～ H26.3	H26.10 ～ H27.9	H27.10 ～ H28.9	H28.10 ～ H29.9	H29.10 ～ H30.9	H30.10 ～ H31.9	R1.10 ～ R2.9	R2.10 ～ R3.9	R3.10 ～ R4.9	R4.10 ～ R5.9	
応募件数	10	14	10	19	15	10	19	9	7	4	12	129
助成件数	4	6	7	7	9	9	9	8	5	4	6	74
助成金額 (千円)	1,349	1,900	1,300	1,500	1,500	1,500	2,000	2,000	1,500	1,000	2,178	17,727

3 広報

「1000人の夢資金」事業の趣旨及び寄付状況等をホームページ、facebook、メール配信（メールニュース）でお知らせしています。

0日)

夢資金ホームページURL
<https://www.kpec.or.jp/yume>



夢資金 facebook URL
<http://www.facebook.com/kpecyume>



※ 1000人夢資金のメール配信によるお知らせをご希望の方は、お手数ですが件名に「メール配信希望、お名前」を記入のうえ、yume@kpec.or.jp へメールをお願いします。



詳細につきましては、1000人の夢資金ホームページの「助成先アーカイブ」をご覧ください。

第1回（平成25年4月1日～平成26年3月31日） 【4件】134万9千円

ZOO と居たくなる！おしゃべりホットルーム	親子のしゃべり場『ふわわ』 代表 吉本一代
第3回北九州市民映画祭	北九州しねま研究会 会長 吉武あゆみ
ひまわりアートプロジェクト	ひまわり実行委員会 代表 三宅美穂子
創立60周年記念小津安二郎「浮草物語」上映会	北九州映画サークル協議会 運営委員長 有吉和大

第2回（平成25年10月1日～平成26年3月31日） 【6件】190万円

ZKU Berlin に於ける滞在制作及び展覧会	佐々木 玄
インスタレーションプロジェクト「BUILDING DIGNITY」展	北九州インスタレーションプロジェクト実行委員会
北九州のディテール展	創を考える会・北九州 理事長 岡野正敏
ひびきのであそぼう ～ あそびはまなび子どもと親の出会いの広場	ひびきの親子あそび研究会 代表 秋葉祐三子
北九州国際ビエンナーレ2013	北九州国際ビエンナーレ2013実行委員会
GRADUATION SPECIAL CONCERT 2013	福田寛季

第3回（平成26年10月1日～平成27年9月30日） 【7件】130万円

松本清張・原作「わるいやつら」演劇公演	劇団「青春座」 代表 井生定巳
トマト摘果ロボット競技会	九工大トマトロボット競技実行委員会
ドッグセラピー「動物愛護週間イベント」	NPO 法人ドッグセラピージャパン 理事長 野田久仁子
ひまわり実行委員会 10 周年記念事業	ひまわり実行委員会 代表 三宅美穂子
「カタリ場」リーダー養成研修	PICO・POKO・CLUB 代表 宮村貴幸
インスタレーションプロジェクト「BUILDING DIGNITY」展	北九州インスタレーションプロジェクト委員会
市民の学び舎計画	ひびきの親子あそび研究会 代表 秋葉祐三子

第 4 回（平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日） 【 7 件 】 150 万円

児童福祉法に基づく放課後等デイサービス事業	NPO 法人 子ども未来 理事長 神原みゆき
「杉山貞（ただす）－教育事始め」演劇公演	劇団「青春座」 代表 井生定巳
小倉織－日本の色と縞－イタリアミラノ・サローネ出店	遊生 染織工房 主宰 築城則子
フリースペース・寺子屋活動	ひびきの親子あそび研究会 代表 秋葉祐三子
小中高校生対象に命の大切さを教える出前授業	(公社)誕生学協会 大江田由美
第 5 回北九州市民映画祭	北九州しねま研究会 代表 吉武あゆみ
GOLDEN BRASS JAPAN FESTIVAL 日本トップ管楽器演奏者が集う奇跡の祭典	GBJF 実行委員会 実行委員長 岩永満宏

第 5 回（平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日） 【 9 件 】 150 万円

映像を用いた地域文化の記録・上映鑑賞・ワークショップ及び映画製作 「平松町アーカイブ」	平松町アーカイブ 代表 荻野衣美子
GALLERY SOAP 20 周年記念イベント	GALLERY SOAP 代表 宮川敬一
マンガで学ぶ日本の産業発展物語事業	西南女学院大学 WILL
句画集「杉田久女 101 句」の発刊	北九州ディスカバリーの会 代表 佐々木慎二
創立 20 周年記念 ロバの音楽座公演	NPO 法人かかんむら幼稚園 代表理事 右田せい子
日本－韓国リバーリンク・プロジェクト	リバーリンク・プロジェクト実行員会 代表 小川裕司
子ども食堂事業 八ちゃん家	八ちゃんファミリー 代表 田畑美佐代
ウジェーヌ・イザイ ヴァイオリンコンサート	日本イザイ協会 会長 永田郁代
【チーム茶道 2016】外国人留学生による男茶会	学研都市留学生支援ネットワーク 理事長 吉江修

第 6 回（平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日） 【 9 件 】 150 万円

MOA 美術館北九州児童作品展	MOA 美術館北九州児童作品展実行委員会
子どもたちが主体的に生きるチカラを育む 「生き方のデザイン授業」	(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 岡昌子
到津の森公園 15 周年記念事業黒田征太郎絵本作成	到津の森ちからの会 幹事長 小田剛
映像を用いた地域文化の記録・上映鑑賞・ワークショップ及び映画製作 「平松町アーカイブ」	平松町アーカイブ 代表 荻野衣美子
好きっちゃ北九州！ ぼくのまち、わたしのまちを紹介します！	NPO 法人好きっちゃ北九州 代表 入門真生
日本・カンボジア文化交流	西南女学院大学 WILL カンボジア支援アナコット
いのちの授業・赤ちゃんゲスト&妊婦体験	いのちの授業 代表 大江田由美
児童福祉法に基づく法に基づく放課後デイサービス事業	NPO 法人 子ども未来
北九州－周防大島 島ミュージカルプロジェクト	島ミュージカルプロジェクト実行委員会

第 7 回（平成 30 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日） 【 9 件 】 200 万円

KITAG MUSIC BATTLE	KITAG MUSIC BATTLE PROJECT 代表 藤田大吾
MAP 玄関口プロジェクト	MAP 玄関口プロジェクト 代表 池上貴弘
第20回ヤングサタ（プレゼント配布）とチャリティー吹奏楽コンサート	（一社）北九州青年経営者会議 ヤングサタ実行委員会
連盟創立55周年位年事業「子ども芸術祭」	北九州文化連盟 代表 井生定巳
旅する絵本カーニバル in 東田	絵本カーニバル実行委員会 代表 村岡純
子どもたちが主体的に生きるチカラを育む「生き方のデザイン授業」	（一社）生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子
やはたアート・マンス2018 ～パレットの樹～ 関連企画「EAT IT!」	八万湯プロジェクト実行委員会 代表 森秀信
キャリア教育『夢授業』	北九州キャリア教育研究会 代表 木原大助
竹凜共振プロジェクト	竹凜共振プロジェクト 代表 田中昇三

第8回（令和元年10月1日～令和2年9月30日） 【8件】200万円	
あそぼうさい in 北九州	NPO法人好きっちゃ北九州 代表 入門真生
子どもたちが主体的に生きるチカラを育む「生き方のデザイン授業」	（一社）生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子
枝光まちなか芸術祭2019	枝光まちなか芸術祭2019 実行委員長 鄭慶一
MAP 玄関口プロジェクト2019	もじこうアート・プラットフォーム 代表 池上貴弘
Hibikino Green learning project 2019 SDGs from Hibikino	NPO法人あそびとまなび研究所 理事長 秋葉祐三子
第21回ヤングサタ（プレゼント配布）とチャリティー吹奏楽コンサート	（一社）北九州青年経営者会議 ヤングサタ実行委員会
旅する絵本カーニバル in 東田	絵本カーニバル実行委員会 代表 村岡純
かんかんむらの音楽会	NPO 法人かんかんむら 代表理事 右田せい子

第9回（令和2年10月1日～令和3年9月30日） 【5件】150万円	
それはモーツァルトだった	北九州ミュージックシアター・みらい 理事長 森岡 謙一
北九州の今を描こうあらわそう伝えよう2020	NPO法人あそびとまなび研究所 理事長 秋葉 祐三子
ポジティブ・ディシプリン」ファシリテーター養成講座	NPO 法人 GGP（ジェンダー・市民地球企画） 代表理事 岩丸 明江
「生き方のデザイン授業」の“新しい学習教材”の開発	（一社）生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山 昌子
第22回ヤングサタとチャリティー吹奏楽コンサート	（一社）北九州青年経営者会議 ヤングサタ実行委員会

第10回（令和3年10月1日～令和4年9月30日） 【4件】100万円	
総勢1500人による本気の大運動会	ONE キッズ先生 代表 國武啓助
こどものうえんぷろじえくと2021▷2022	NPO法人あそびとまなび研究所 理事長 秋葉 祐三子

Kitakyushu 夢プロジェクト～7色のこどもたち～	北九州青年会議所 理事長 竹内 陽平
子どもたちが主体的に生きるチカラを育む『生き方のデザイン授業』を届けるプロジェクト	(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山 昌子

別紙 4

令和4年度 (公財)北九州活性化協議会 執行役員会議 開催記録

2022 年度		執行役員会議 開催実績 出席○、欠席×				
	開催日	時間	高城 会長	田園 理事長	高田 副理事長	川原 専務理事
4 月度	4 月 28 日	15 : 30～ 16 : 30	○	○	○	○
5 月度	5 月 24 日	メール開催	○	○	○	○
6 月度	7 月 1 日	メール開催	○	○	○	○
7 月度						
8 月度	8 月 31 日	メール開催	○	○	○	○
9 月度	9 月 29 日	メール開催	○	○	○	○
10 月度	11 月 1 日	メール開催	○	○	○	○
11 月度	12 月 1 日	メール開催	○	○	○	○
12 月度	1 月 6 日	メール開催	○	○	○	○
1 月度	2 月 2 日	メール開催	○	○	○	○
2 月度	2 月 10 日	メール開催	○	○	○	○
	3 月 1 日	メール開催	○	○	○	○
3 月度	4 月 3 日	メール開催	○	○	○	○

定款(理事の職務及び権限):第32条第4項に基づく執行役員の職務執行の状況報告。

事業報告の附属明細書

該当するものではありません。